



平穩な死の迎え方を解説する長尾医師＝尼崎市昭和2のあましんアルカイックホール・オクトで

終末期医療を解説 医師ら講演 死の迎え方考える

尼崎

終末期医療の在り方を考える「フォーラム」が、尼崎市昭和通2のあましんアルカイックホール・オクトであつた。医師で「長尾クリニック」(同市)院長の長尾和宏さん(55)や女優の木内みどりさんが講演し、自らに迫る死との向き合い方を、死集まったく約600人に投げかけた。

同市の在宅医療関係者でつくるグループ「ケアネット尼崎」が主催し、10日に開かれた。長尾医師は、終末

期になった時に延命措置を受けないで死を迎えることを平穏死や尊厳死と呼ぶと説明。「その方が苦痛が少なく、穏やかに死ぬことができる」と話した。

【大森治幸】

また「抗がん剤などで最期まで戦いたい方はそれも保障されています。しかし『先は長くないから延命措置はやめてくれ』と言う権利は患者にあるのではないか」と話した。

木内さんは、交通事故で全身まひになつた妻巻子さん(70)を支え

ている富山市の松尾幸郎さん(77)夫婦を紹介。延命を断ることができる患者の選択権確立を訴える松尾さんの声を代読した。